

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成27年度第1回)

日時：平成27年7月3日（金）午後2時～午後3時30分
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 委員の委嘱について（資料1）
- (2) 参加チームの申込み状況について（資料2）

4 議 題

- (1) 議案第1号
第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画について（資料3）

5 その他

- (1) 平成27年度予算及び平成26年度決算について（資料4）
- (2) 今後の日程について（資料5）

6 閉 会

資料 1

前任の人事異動等に伴い、以下の3名の方を平成27年4月20日付けで委員に委嘱しました。

- ・社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 杉本 新二 専務理事
- ・鳥取県高等学校長協会 藤原 辰広 会長
- ・鳥取県私立中学高等学校長会 山内 晃 会長

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議委員名簿

(平成27年4月20日現在)

役職	所属・役職名	氏名(敬称略)	委嘱日
委員長	鳥取県福祉保健部長	松田 佐恵子	平成27年2月23日
委員	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	平成27年2月23日
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	平成27年2月23日
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 福祉・労働委員会委員長	諸家 紀子	平成27年2月23日
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	平成27年2月23日
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	平成27年2月23日
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	平成27年2月23日
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事	杉本 新二	平成27年4月20日
	鳥取県教育委員会教育次長	小椋 博幸	平成27年2月23日
	鳥取県高等学校長協会 会長	藤原 辰広	平成27年4月20日
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	山内 晃	平成27年4月20日
鳥取県立鳥取豊学校 校長	藤田 則恵	平成27年2月23日	

資料 2

第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園への申込み状況について

1 申込みのあった高校

4校（平成27年7月2日時点）

[申込みチーム一覧]

番号	高校名	都道府県	昨年	備考
1	やまとせいらん 大和青藍高等学校	福岡県	予選	
2	たつるはま 田鶴浜高等学校	石川県	本選	前回大会の優勝校
3	こくらみなみ 小倉南高等学校	福岡県	予選	
4	鳥取城北高等学校	鳥取県	予選	

※ 現在の申込み状況は上のおりだが、申込み時に予選審査用の動画の提出を求めていることから、申込み期限（7/10（金）直前に申込みが殺到するものと考えられる。

（昨年も、締め切り直前1週間で全体の8割の申込みがあった。）

2 県内高校（昨年申込み校）のうち、今年も申込みの意向がある高校

高校名	昨年	備考
鳥取聾学校	本選	
境港総合技術高等学校	本選	
倉吉北高等学校	本選	
岩美高等学校	予選	
鳥取城北高等学校	予選	※申込み済

3 その他参考

(1) 昨年参加校の動向

内容	高校数	備考
参加意向のある高校	25校	2の5校を含む。
検討中の高校	11校	メンバー募集中など
参加しない高校	5校	

(2) 昨年申込みをしていない高校で、今年新しく参加意向のある高校（新規） ⇒ 5校

第2回 全国高校生
手話パフォーマンス甲子園

実施計画（案）

【平成27年7月3日現在】

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

目次

I	参加チーム募集
II	審査員、司会者及びゲストパフォーマー
III	審査基準
IV	観覧者募集
V	大会運営	
1	大会スケジュール
2	会場計画
3	運営体制
4	イベントバリアフリー

I 参加チーム募集

1 参加資格

- (1) 平成 27 年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）又は特別支援学校高等部に在籍していること
- (2) 手話パフォーマンス甲子園（以下「本大会」という。）に出場することについて、在籍する学校長の推薦を得ていること
- (3) 本大会に出場するに当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること
- (4) 本大会の本選の全日程に参加できること

2 本選出場チーム数

応募チームの中から予選審査を通過したチームが本選に出場することとし、出場チーム数は 20 チーム程度とする。

3 チーム編成

1 チームの編成は、同一校又は複数校で編成する連合チームの生徒及び引率者とし、生徒は 20 人以内、引率者は 10 人以内とする。なお、同一校からの複数チームの応募は認めるが、本選に出場できるのは予選審査で同一校中最上位であったチームのみとする。

4 手話パフォーマンスの内容

- (1) 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。
- (2) 演技時間は、8 分以内とする。
- (3) 机・椅子などの簡単な小道具やスクリーンの使用は認めるが、準備に時間を要する大道具、舞台装置、背景等の設営は認めない。
- (4) 舞台の有効スペースは、間口 15 メートル、奥行 9 メートルである。なお、客席から手話や表情が見やすい範囲は、間口 12 メートル、奥行 6 メートル程度であるので、留意すること。

5 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査 4 名程度、本選審査 6 名程度とし、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、応募チームが提出した動画により審査員が行う。
- (4) 予選及び本選の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

6 応募方法

平成 27 年 5 月 11 日(月)から同年 7 月 10 日(金)（必着）までに、次に掲げるものを提出すること。

- ① 参加申込書
- ② 学校長推薦書

③ チーム紹介文及び選手集合写真

④手話パフォーマンスの動画（予選審査用。3分以内。）及び字幕用テキストデータ

7 応募先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目 220 番地

鳥取県庁障がい福祉課内 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局

電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.jp

8 参加料

無料

9 出場チームへの助成

出場チーム（引率者を含む。）に、次のとおり、交通費及び宿泊費の一部を助成する。

① 交通費（領収書必要）

実費相当額を助成。（1チーム当たり 250,000 円を上限とする。）

② 宿泊費（領収書必要）

実費相当額を助成。（1チーム当たり 50,000 円を上限とする。）

10 募集広報

広報ツール	種類	内容
インターネット	ホームページ運営	・公式ホームページに情報を随時掲載
	ソーシャルメディア等の活用	・ Facebook, twitter, LINE に情報を随時配信 ・ YouTube に前回大会の動画を掲載 ・ YouTube に大会 PR 動画を掲載
紙媒体	開催要項、募集チラシの送付	・ 全国の全ての高等学校、特別支援学校に送付 ・ 各都道府県障がい福祉担当課、教育委員会に送付 ・ 各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体に送付
	ポスターの掲示	・ 県内の公共施設、観光施設等へ配布、掲出依頼
誌面紹介		・ 季刊みみ 147 号(2015 年春季号) 特集記事掲載 ・ 季刊みみ 148 号(2015 年夏季号) チーム募集案内
ディスプレイ広告		・ 山陰 JR 主要駅にてディスプレイ(電子看板)広告
マスメディアの活用		・ 時事通信の官庁速報メールマガジンへの掲載
各種イベントでの PR 活動		・ 全国ろうあ者大会ほか、各種大会等での PR
個別勧誘活動		・ 中国地方各県に訪問の上、参加協力要請 ・ 手話言語条例制定市町に訪問の上、参加協力要請
パブリシティ		・ 開催準備状況等を随時、プレスリリース

Ⅱ 司会者、審査員及びゲストパフォーマー

1 司会者

氏名		職名等
①	はやせ けんたろう 早瀬 憲太郎 氏	ろう者 ろう者として学習塾「早瀬道場」を設立し、塾長としてろう児の国語指導等を行っている。 映画「ゆずり葉」の脚本・監督。 2015年3月まで、NHK「みんなの手話」の講師として永年に渡り出演。
②	いまい えりこ 今井 絵理子 氏	聞こえる人 1996年 SPEED としてデビュー。 2008年には日本テレビの「24時間テレビ」に出演し、聴覚障がいのある息子と前向きに生きる姿を公表。 2010年4月から「みんなの手話」の6代目司会を務めた。




①早瀬 憲太郎 氏 (左)
②今井 絵理子 氏

2 審査員

氏名		職名等
①	【審査員長】 しょうぎ たかし 庄崎 隆志 氏 	※文言を本人に確認中 演出家・俳優 ろう者 19歳でプロ劇団デフ・パペットシアター・ひとみの旗揚げに参加。その後、代表・演出となる。 松山善三演出の『赤い椿の物語』出演。 『オルフェ』、『曾根崎心中』『遠野物語』主演など、俳優として表現方法を探求しながら演出・脚本も手掛ける。以来、全国各地780ヶ所で2000回以上、ヨーロッパ、アメリカ、アジア各地など海外14ヶ国で公演。 2005年、デフ・パペットシアターひとみ退団後も、公演プロデューサー、そのかわら大学などでワークショップの講師としても活動。 2009年、映画『ゆずり葉』（全日本ろうあ連盟製作）主演。 2010年、横浜文化賞・文化芸術奨励賞の受賞など、多くの受賞歴があり、ろう者の俳優の第一人者として活躍中。

②	<p>きだ 貴田 みどり 氏</p> 	<p>俳優 ろう者 生後まもなく難聴になるも、3歳からクラシックバレエを始め、身体表現豊かな子供時代を過ごす。 2005年、高校2年生で第22回手話スピーチコンテストに出場し、難聴の立場の思いをスピーチし第2位を獲得。 その後聴力が下がり失聴。 大学在学中から女優として活動開始。 2009年、映画「ゆずり葉」出演。 2011年～、NHK「みんなの手話」出演。 現在、テレビ、舞台などで幅広く活動中。世界各国の手話をいくつか習得。</p>
③	<p>こなか えいいち 小中 栄一 氏</p>	<p>全日本ろうあ連盟副理事長 ろう者 ※現在、確認中。(会議時に修正予定)</p>
④	<p>みうら つよし 三浦 剛 氏</p> 	<p>俳優 聞こえる人 1993年に奈良を中心に活動する劇団 MisU・SJr に入団。 1998年にキューブ・リコモーションに所属してTVドラマで本格的に俳優デビューをする。 TV・映画・CMなど数多く出演し、2001年に演劇集団キャラメルボックスにも入団し舞台にも多数出演。 2007年には元 TEAM 発砲・B・ZIN の西ノ園達大とアカペラバンド Sugar Style Spirit の悠晃の3人で歌と芝居とのコラボレーションユニット「3☆COLORS」を結成し活動、そのグループで沢山の手話アクトソングも披露している。 プロ野球横浜 DeNA ベイスターズ投手の三浦大輔は2歳上の実兄。 妻は、ろう者で女優の忍足亜希子。</p>
⑤	<p>みと まなみ 水戸 真奈美 氏</p> 	<p>歌手 聞こえる人 宮城県の学生時代、聴覚障がい者との出会いから町の手話講座に参加し、手話の楽しさに気づく。 上京後、「自分の声が聞こえない方々にも気持ちを伝えられたら・・・」と思い手話を付け始める。 「手話」がキッカケで多くの出会いと気づきを得ることができ、「手話」というコミュニケーションのおかげで引っ込み思案の性格が180度変わり、積極的に行動できるようになる。 そんな人生を変えてくれた「手話」の魅力を伝えながら、障がい関係なくみんなで一緒に楽しめる空間・みんなが暮らしやすい社会を目指し、活動している。 2010年4月にリリースされた「Live the Dream」で全国デビュー。 「Wedding Road」は、2011年3月の東日本大震災において、南三陸で防災無線で避難を呼びかけ続けてお亡くなりになった遠藤未希さんに捧げた歌として、テレビや新聞各紙に取り上げられ話題となった。 現在は、「命」や「生きる力」をテーマに出会いから学んだ大切なことを伝える講演活動を行うと共に、自身主催の手話サークルや震災支援活動も行っている。</p>

⑥	佐分利 育代 氏 	<p>鳥取県女子体育連盟会長 元鳥取大学地域学部附属芸術文化センター長 聞こえる人 1975年に鳥取大学に赴任後、40年間にわたって舞踊の研究と教育に尽力された。研究テーマは、舞踊創作、舞踊教育、障害とダンス、インクルーシブ・ダンス。2015年3月に同大学を退職された。また、様々な年齢、様々な個性の人たちが一緒に、それぞれの作品を発表するダンス公演を、鳥取市民のサークル『ダンスコング』のメンバーと開催されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モダンダンスアピール展」昭和54年－平成15年 ・「こころとからだのharmony」平成16年－平成20年 ・「ダンスポケット春」平成18年から ・「ダンスポケット秋」平成21年から <p>その他にも、「ダンスポケット春」の開始を機にインクルーシブ・ダンス作品を毎年一作ずつ発表されるなど、個を発揮しながら共生を体験できるダンスの場を広げることをモットーに、芸術文化に積極的に取り組まれている。</p>
---	---	---

【予選審査会の審査員】

上の審査員のうち、以下の4名とする。

庄崎 隆志 氏 (審査員長)
小中 栄一 氏
水戸 真奈美 氏
佐分利 育代 氏

3 手話パフォーマー（ゲスト演技）

HANDSIGN

(ハンドサイン)

リーダーTATSU (タツ(ボーカル、ダンス))、SHINGO(シンゴ(ボーカル、ダンス))、ROY(ロイ(ダンス、アクロバット))、JiN (ジン(ダンス、コレオグラフ))、OzA (オザ(ダンス))の5人組ボーカル&パフォーマンスグループ。

HANDSIGN は他にはないオリジナルスタイルで観客にメッセージを伝えるボーカル&パフォーマンスグループである。

音楽やダンスで全ての人達に笑顔になってもらえるように、老若男女問わず楽しめるようなLIVE空間を追求し続けている。

2005年・手話ダンスグループ HANDSIGN(ハンドサイン)を結成。

2009年・NYアポロシアターコンテスト「アマチュアナイト」で初優勝。

2010年・アマチュアナイト公認パフォーマーとなる。

2011年・テレビ出演、都内電車内モニターにて手話とダンスを取り入れた動画コンテンツが6ヶ月間配信される。

2012年・カンボジアへダンス支援活動プロジェクトに同行。カンボジア内学校設立や、各地でパフォーマンス活動をし、オリジナル楽曲を制作。

2013年・ろう者のオリンピック「デフリンピック」日本選手団応援ソングを制作し、デフリンピックを広める活動を精力的に展開。

2014年・地元神奈川県の中学校、高校50校を回って手話エンターテイメントの角度から広げようと目標を立て、LIVE活動を続けている。第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会のクライマックスイベントに参加。



【第2回大会公式テーマソング（案）】

HANDSIGN「友達」

⇒ 大会のフィナーレに、出演者・来場者全員で手話を交えて大会テーマソングを歌唱。

- ろう者、聞こえる人が一緒に歌うことで、ろう者や手話と触れ合う機会を造り、手話を身近なものとして感じてもらうきっかけとする
- 感動的なフィナーレを迎えることで、記憶に残る大会を創造する。

Ⅲ 審査基準

予選審査実施要領

1 期日

平成 27 年 7 月 29 日 (水)

2 審査員

審査員の構成は、ろう者 2 名及び聞こえる人 2 名の 4 名とし、このうち 1 名を審査員長とする。

3 審査方法

4 の採点方法に基づき、各審査員が各チームの演技（動画）を審査、採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 採点方法

(1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

審査員	手話の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	総合的な表現力	合計
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
合計	(60 点満点)	(60 点満点)	(80 点満点)	(200 点満点)

(2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話の正確性・分かりやすさ

表情も含め、正確かつ分かりやすく、表現したい内容が理解できるかどうか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

ウ 総合的な表現力

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

(3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点からの減点とする。失格又は点数の定めのない減点は、審査員の協議により決定する。

ア 差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合 失格

イ 第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合 失格

ウ 準備に 1 分以上の時間を要すると見込まれる大道具等の使用及び設置 失格

エ 動画制限時間（3 分）の超過 超過時間 10 秒ごとに 10 点減点

（例 5 秒超過 -10 点、17 秒超過 -20 点、22 秒超過 -30 点）

オ 定められた動画の撮影方法に反した場合 20 点減点

※ 演技の始めから終わりまでを通して、演技者の正面でカメラを固定し、演技者の身体全体が見えるよう、一定の倍率で撮影したものとする。カメラを移動させながらの撮影や倍率を変えての撮影はしないこと。

カ その他主催者が不適切と認めた演技又は行為 失格又は減点

5 本選出場チームの選出方法

(1) 地方ブロック枠 (6 チーム)

応募チームを所在地別に 6 つの地方ブロック (北海道・東北ブロック、関東ブロック、中部ブロック、近畿ブロック、中四国ブロック、九州・沖縄ブロック) に振り分け、各ブロックで最終得点の合計が 1 位であったチームを本選出場チームに選出する。

(2) 得点順枠 (13 チーム)

地方ブロック枠選出チームを除き、最終得点の合計が上位の 13 チームを本選出場チームに選出する。

(3) 開催地枠 (1 チーム)

地方ブロック枠及び得点順枠の選出チームを除き、鳥取県内の応募チームで最終得点の合計が上位の 1 チームを本選出場チームに選出する。

(4) 地方ブロック枠内又は開催地枠内で応募チームがないときは、その枠を得点順枠のチーム数に加えることとする。なお、合計得点が同点となり、本選出場チームが得点のみでは決められない場合は、審査員長が決定する。

6 本選での演技順の決定方法

本選に出場する 20 チームを 2 つのグループに分け、予選の最終得点が下位の 10 チームを A グループ、上位の 10 チームを B グループとして、各グループ内で演技順を抽選する。本選では A グループ、B グループの順に演技する。抽選は、予選審査結果発表の場で行う。

7 結果通知及び公表

- (1) 応募チームに対し、予選審査結果 (予選通過又は落選)、最終得点及び審査員評 (審査員名は非公開) を送付する。
- (2) 本選出場チームについて、チーム名、最終得点、応募で提出されたチーム紹介文及び集合写真を大会公式ホームページに掲載する。
- (3) 予選審査結果の発表の様子は、インターネット上でライブ配信する。

8 その他

予選審査結果発表の場で、抽選により、選手宣誓を行うチームを決定する。

本選審査実施要領

1 平成 27 年 9 月 22 日 (火・休)

2 審査員

審査員は、ろう者 3 名及び聞こえる人 3 名の 6 名とし、このうち 1 名を審査員長とする。

3 審査方法

5 の採点方法に基づき、各審査員が各チームの演技を審査、採点し、その合計を各チームの審査得点とする。

4 演技時間等

- (1) 演技の制限時間は 8 分とし、演技前の準備制限時間は 1 分とする。
- (2) 演技は、司会者の紹介後、ステージが明転したときをもって開始し、生徒の「ありがとうございました」の発声をもって終了する。

- (3) 出演者によるステージ以外の場所での演技は認めない。なお、障がいがあるため出演者が演技を行う際に補助が必要な場合に限り、リズムを示す等、ステージ外から引率者が補助動作を行うことは認める。

5 採点方法

- (1) 各審査員が、次の表に掲げる審査項目を担当項目別に採点する。

	手話の正確性・ 分かりやすさ	演出力・ パフォーマンス度	総合的な表現力	合計
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
ろう者	(30 点満点)	(30 点満点)		(60 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
聞こえる人			(40 点満点)	(40 点満点)
合計	(90 点満点)	(90 点満点)	(120 点満点)	(300 点満点)

- (2) 各審査項目の採点の観点は次のとおりとする。

ア 手話の正確性・分かりやすさ

表情も含め、正確かつ分かりやすく、表現したい内容が理解できるかどうか。

イ 演出力・パフォーマンス度

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

ウ 総合的な表現力

チームとしての一体感、機知に富み観客を魅了する表現力、ひたむきさがあり、伝えたい内容がしっかりと伝わってくるかどうか。構成や演出がよく工夫されているかどうか。

- (3) 演技等が次に該当する場合は、当該各号に記載のとおり失格又は審査得点からの減点とする。失格又は点数の定めのない減点は、審査員の協議により決定する。

ア 差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合 失格

イ 第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合 失格

ウ 事前に認められた小道具等以外のものを使用した場合 10 点減点

エ 演技前の準備制限時間（1 分）の超過 10 点減点

オ 演技制限時間（8 分）の超過 超過時間 10 秒ごとに 10 点減点

（例 5 秒超過 -10 点、17 秒超過 -20 点、22 秒超過 -30 点）

カ ステージ以外の場所での演技 10 点減点

キ その他主催者が不適切と認めた演技又は行為 失格又は減点

6 表彰チームの決定方法

- (1) 優勝、準優勝及び 3 位は、最終的な得点により決定する。なお、上位 3 位までの最終得点が同点の場合は、審査員で協議の上審査員長が決定する。
- (2) 審査員特別賞は、審査員の協議により決定する。
- (3) 全日本ろうあ連盟理事長は、全日本ろうあ連盟賞を決定する。
- (4) 日本財団理事長は、日本財団賞を決定する。

7 結果通知及び公表

- (1) 大会終了後、各チームに対し、最終得点及び審査員評（審査員名は非公開）を送付する。
- (2) 受賞チームについて、チーム名及び最終得点（優勝、準優勝及び 3 位に限る。）を、大会公式ホームページに掲載する。

IV 大会の観覧

- 1 **観覧方法** 観覧自由（事前申込み不要）（ただし、小学生以下の者は保護者の同伴が必要）
- 2 **入場料** 無料
- 3 **入場者数** 約 650 人程度
- 4 **注意事項**
 - （1）会場ホールには、車いす利用者用観覧スペース 6 席及び聴覚障がい者用に情報保障席を確保する。
 - （2）車いす利用者用観覧スペースでの観覧、受付での車いすの貸出、ハートフル駐車場スペースの利用、磁気ループの利用、託児サービスを希望する者は、予め申し出ること。
 - （3）会場駐車場は、ハートフル駐車場及び関係者用としての利用を優先するため、来場はできるだけ公共交通機関を利用することとし、車で来場する場合は周辺の有料駐車場に駐車すること。なお、鳥取県西部総合事務所及び西部福祉保健局の駐車場は無料で利用できる。また、米子市役所に駐車した場合は、会場にて無料処理（最大 6 時間まで）を行う。
- 5 **会場以外での観覧方法**

より多くの方に大会を観覧いただけるよう、大会当日、ステージの様子をインターネットでライブ配信する。なお、著作権の関係で、音声を配信できない場合がある。（著作権について所有者の許諾が得られない場合、生放送及び録画放送とも CD 音源を使用して You Tube で配信することができない。）

V 大会運営

1 大会スケジュール

【リハーサル】平成27年9月21日（月・祝） 米子市公会堂

時間	内容	備考
11:00	リハーサル開始	1チームあたり15分×20チーム
17:00	リハーサル終了	

【交流会】平成27年9月21日（月・祝） 米子全日空ホテル

時間	内容	備考
18:00	交流会開会	約250名、立食ビュッフェ形式、 テーブル指定
20:00	交流会閉会	

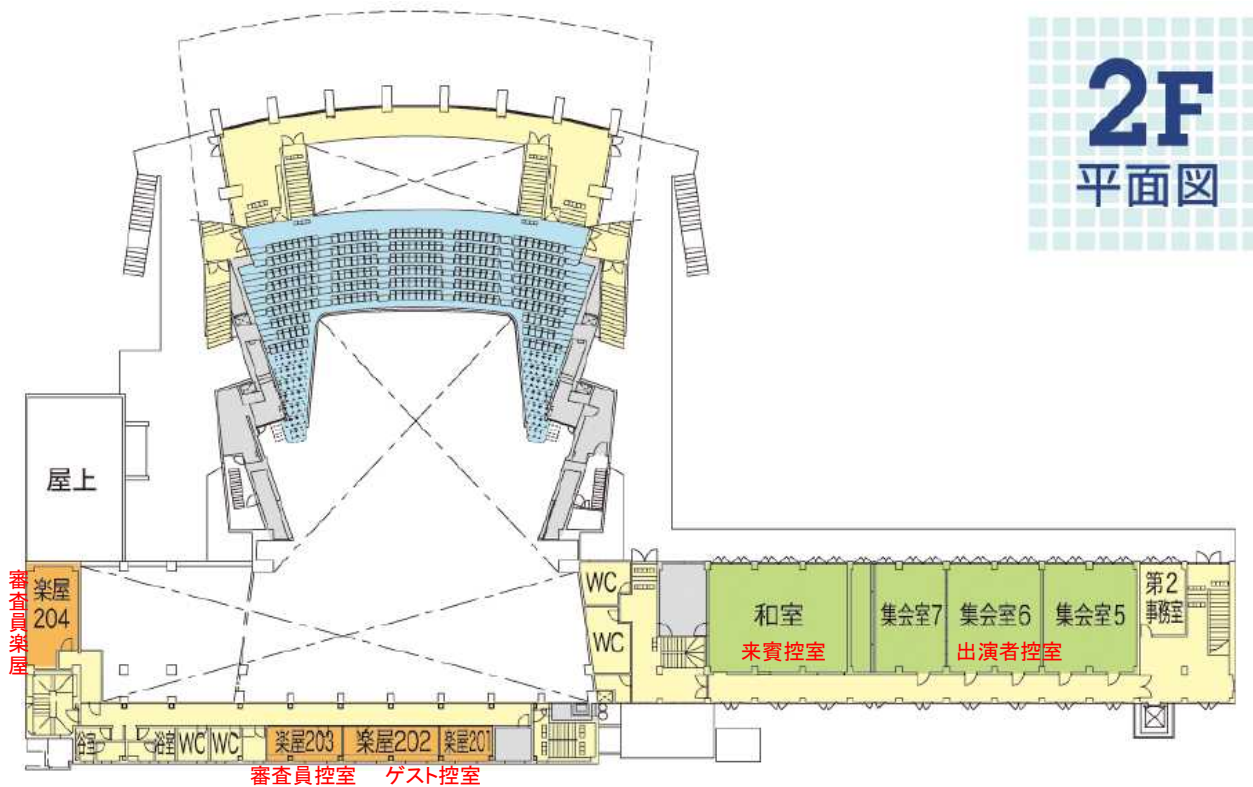
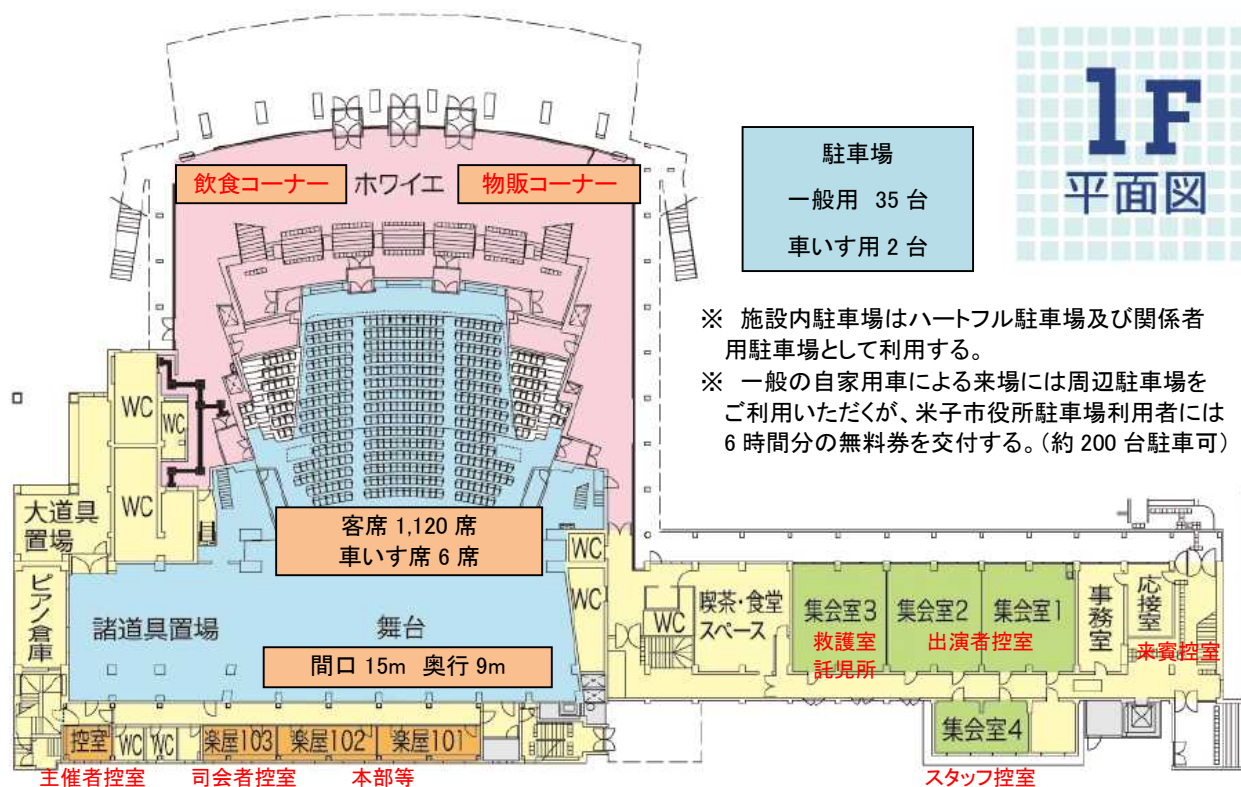
【本選】平成27年9月22日（火・休） 米子市公会堂

時間	内容	備考
9:00	来場者受付開始、開場	
9:30	開会式（総合司会：未定） 主催者挨拶（実行委員会会長） 主賓挨拶（全日本ろうあ連盟理事長、日本財団理事長） 出場チーム紹介（20チーム）、優勝旗返還、選手宣誓 審査員紹介、審査基準説明、協賛企業紹介	
10:10	出場チーム演技（司会：早瀬憲太郎氏、今井絵理子氏） Aグループ：10チーム（1チームあたり10分）	
12:00	<昼休憩>	
12:50	出場チーム演技（司会：早瀬憲太郎氏、今井絵理子氏） Bグループ：10チーム（1チームあたり10分） <休憩>13:40～13:50、14:50～15:00	
15:00	ゲストパフォーマー演技（30分）	
15:30	表彰式 審査員特別賞（賞状、副賞） 第3位（賞状、メダル、副賞） 準優勝（盾、賞状、メダル、副賞） 優勝（優勝旗、賞状、メダル、副賞） 全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞（賞状、副賞） 審査員長講評 閉会挨拶（鳥取県聴覚障害者協会理事長） 大会公式ソング 歌唱	優勝、準優勝、第3位チームへ贈るメダル及びそれ以外の出場チーム及び応募チームへ贈る記念品は砂を使ったレリーフを特注
16:20	閉会	

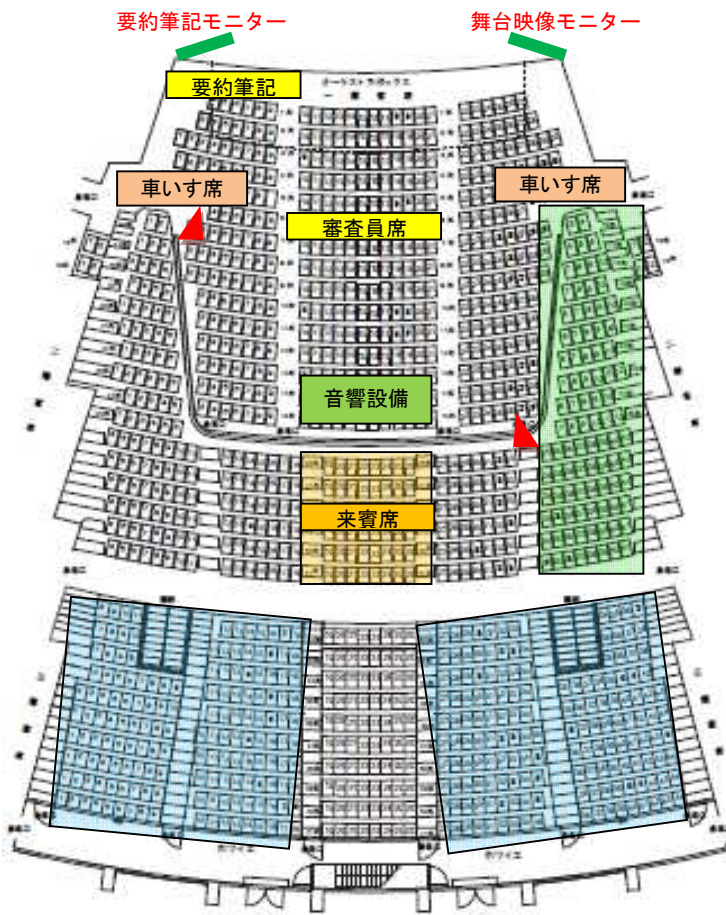
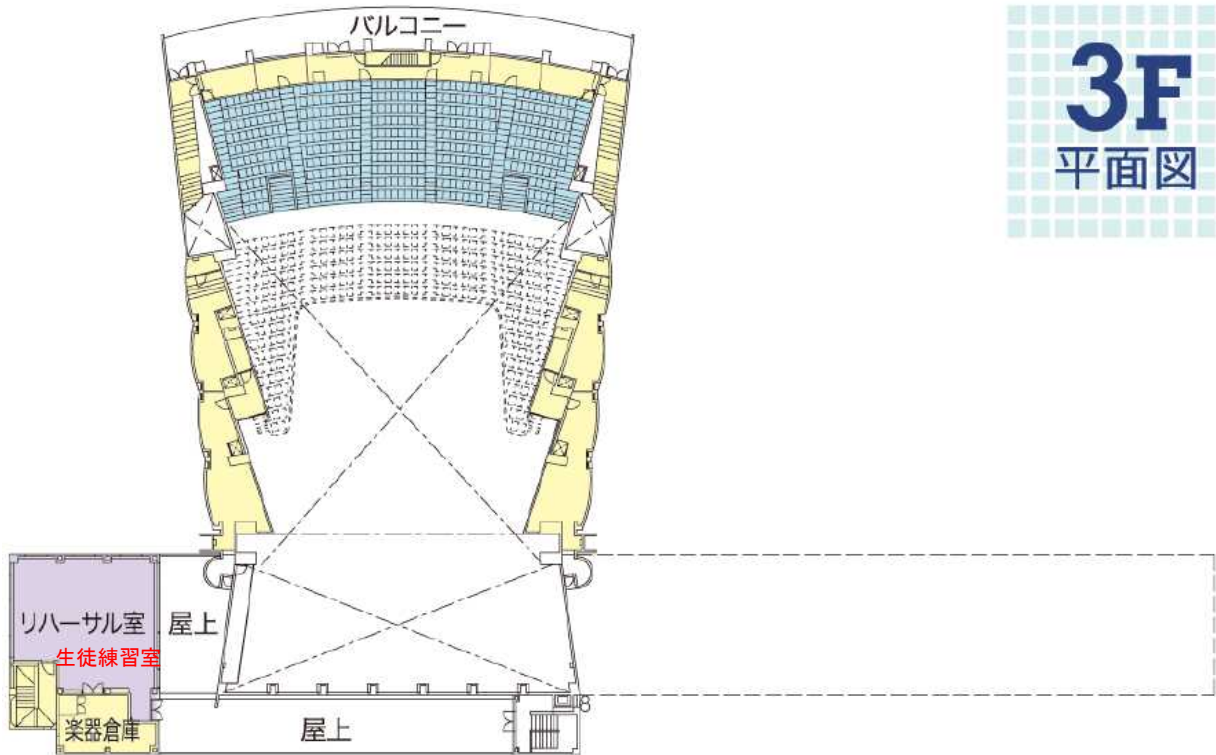
※本選当日、米子市公会堂内で次の催しを実施する。

- ・鳥取聾学校写真部作品展（ホワイエ）
- ・大会記念グッズ等の販売コーナー（ホワイエ）
- ・障がい福祉サービス事業所、米子商工会議所による飲食物販コーナー（前庭）

2 会場計画



3F 平面図



ホール

▲ 映像中継用カメラ

要約筆記 6席
審査員席 12席

一般来場者 645席

車いす利用者 6席

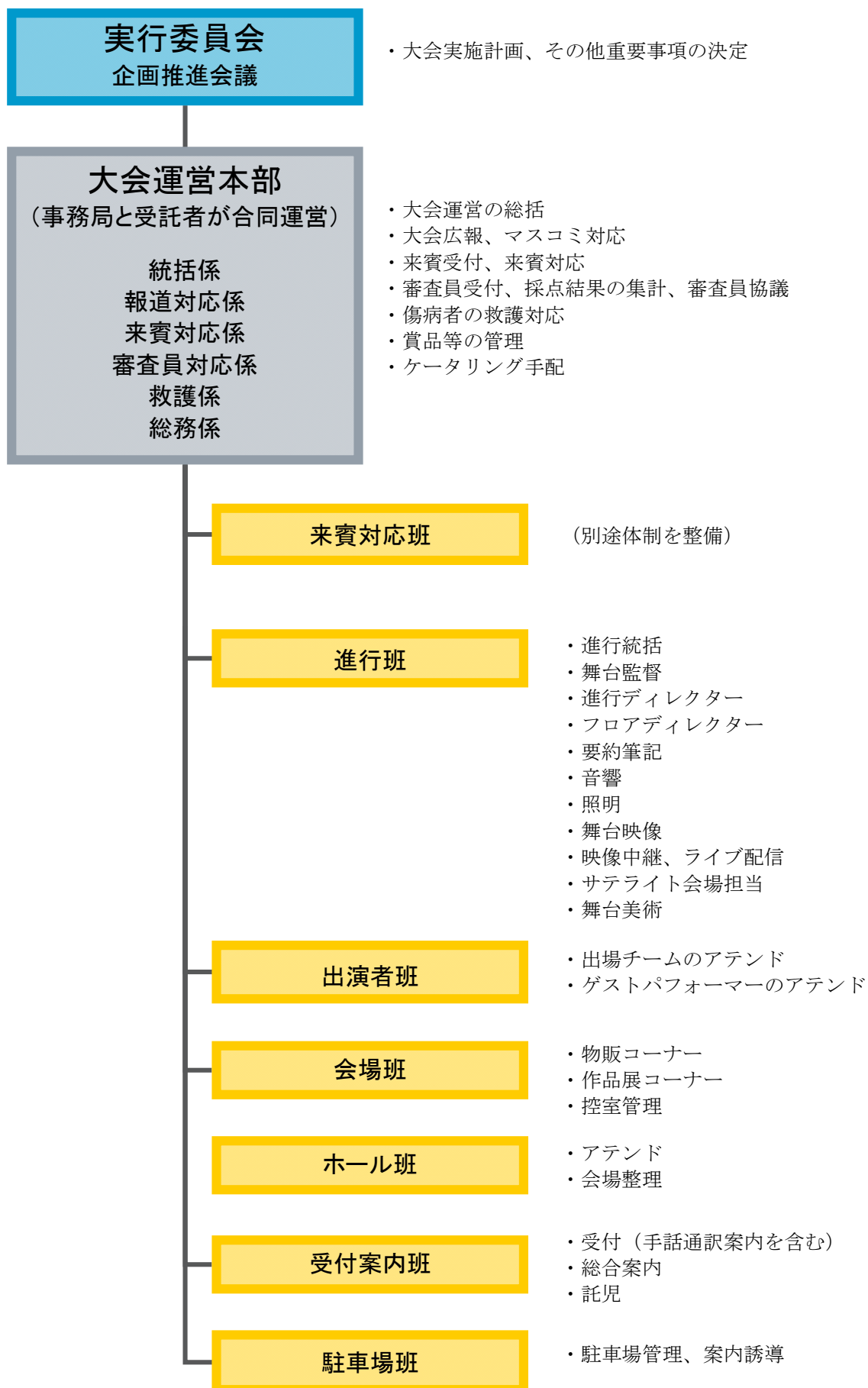
出場者 316席

来賓・実行委員 48席

プレス 93席

区分	固定席	身障者席	備 考
1階席	398席	6席	1階1-3階、4階以上は身障者
2階席	326席	—	オーケストララビッドは身障者
3階席	396席	—	オーケストララビッドは身障者
合計	1,120席	6席	

3 運営体制



4 イベントバリアフリー

(1) 広報

- ・チラシ及び大会プログラムに音声コードを掲載
- ・点字版の作成

(2) 会場設営

ア 車いす使用者への対応

- ・受付付近に車いすを準備し、希望者へ貸し出し
- ・車いす使用者に配慮した受付カウンターを設置（高さ、奥行き）
- ・車いす使用者の客席を確保（6台分）
- ・会場内に多目的トイレ（車いす対応）あり

イ 聴覚障がい者への対応

- ・受付に手話通訳者を配置、筆談用紙を設置
- ・司会進行等における音声による発言を手話通訳
- ・要約筆記又は字幕表示用スクリーンを設置
- ・盲ろう者向け通訳介助者を配置

ウ 手話が分からない方への対応

- ・ろう者の手話による発言を音声通訳
- ・要約筆記又は字幕表示用スクリーンを設置
- ・運営スタッフがメッセージボードを所持

エ 傷病者への対応

- ・救護スペースを会場内に確保、看護師を配置

オ 育児中の方への対応

- ・託児や授乳ができるスペースを会場内に確保

(3) 駐車場

- ・ハートフル駐車スペースを確保

資料 4

平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支予算書

平成27年6月25日専決

(1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	備考
助成金	27,870,000	・(公財) 日本財団助成金
負担金	7,575,000	・鳥取県負担金
協賛金	1,000,000	・協賛金
雑入	938	・前年度繰越分(預金利息)
計	36,445,938	

(2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	備考
実行委員会運営費	698,000	・委員旅費 ・事務局運営費 等
広報宣伝費	4,096,000	・チラシ、ポスター経費 ・広告費 等
大会準備費	1,467,000	・関係機関との連絡調整費 ・大会運営委託業者選定審査会経費 ・予選審査会経費 等
大会運営費	30,184,938	・大会運営委託費 ・参加者旅費 ・審査員、ゲスト等出演費 等 ・交流会経費
計	36,445,938	

平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事業計画書

1 事業の目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築くため全国初の手話言語条例を制定した鳥取県において、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的として、「手話パフォーマンス甲子園」を開催する。

この大会を鳥取県及び公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会が共同で開催するに当たり、準備に万全を期するとともに、円滑な大会運営を図る。

2 事業の内容

手話パフォーマンス甲子園の円滑な実施及び運営を図るため、以下の事業を行う。

ア 手話パフォーマンス甲子園の企画、準備及び運営に関すること。

イ その他手話パフォーマンス甲子園の目的を達成するために必要なこと。

3 手話パフォーマンス甲子園の概要

(1) 概要

日 時	9月22日（火・休）9時30分～16時30分
場 所	米子市公会堂（米子市角盤町二丁目61）
プログラム	1 開会 2 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり8分以内） 3 ゲスト演技（手話パフォーマー） 4 審査発表（審査員6名） 5 表彰式（賞状等授与） 6 総評 7 閉会

(2) 資格 高等学校又は特別支援学校高等部に在籍している生徒（学校長の推薦書が必要。）

(3) 演技 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、漫才などのパフォーマンス

(4) スケジュール

ア 募集期間

平成27年5月11日（月）から同年7月10日（金）まで

イ 予選審査会

平成27年7月29日（水）とりぎん文化会館

ウ リハーサル・交流会

平成27年9月21日（月・祝）米子市公会堂（リハーサル）・全日空ホテル（交流会）

エ 本選

平成27年9月22日（火・休）米子市公会堂

4 実行委員会の開催予定

日 程	内 容
平成27年6月	実行委員会企画推進会議（第1回）
平成27年8月	実行委員会企画推進会議（第2回）
平成27年11月	実行委員会企画推進会議（第3回）
平成27年12月	実行委員会総会（第1回）
平成28年2月	実行委員会企画推進会議（第4回）
平成28年3（4）月	実行委員会総会（書面報告）

平成26年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支決算書

(1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差 引	備 考
助成金	22,660,000	22,660,000	0	(公財) 日本財団助成金
負担金	0	4,437,180	4,437,180	鳥取県負担金
雑入	0	4,568,243	4,568,243	・預金利息 ・各機関負担額受入分 (交流会経費)
計	22,660,000	31,665,423	9,005,423	

(2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差 引	備 考
総務費	698,000	624,649	73,351	・関係機関等との連絡調整費 ・事務局運営費 等
広報宣伝費	3,096,000	894,404	2,201,596	・チラシ、ポスター経費 ・広告費 等
事業費	16,418,000	24,775,689	△8,357,689	・会場設営・運営費 ・参加者旅費 ・審査員経費 ・ゲスト等出演費 ・賞状・副賞等作成費 等
交流会費	2,448,000	5,369,743	△2,921,743	・会場、バス借り上げ代 ・参加者旅費 ・食糧費 等
計	22,660,000	31,664,485	△9,004,485	

※ 収入 31,665,423 円－支出 31,664,485 円＝938 円 (翌年度繰越)

※ なお、翌年度繰越金 938 円は、全額預金利息。

平成26年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事業報告書

1 事業の目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築くため全国初の手話言語条例を制定した鳥取県において、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的として、「手話パフォーマンス甲子園」を開催する。

この大会を鳥取県及び公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会が共同で開催するに当たり、準備に万全を期するとともに、円滑な大会運営を図る。

2 事業の内容

(1) 手話パフォーマンス甲子園実行委員会の事業

手話パフォーマンス甲子園の円滑な実施及び運営を図るため、以下の事業を行う。

ア 手話パフォーマンス甲子園の企画、準備及び運営に関すること。

イ その他手話パフォーマンス甲子園の目的を達成するために必要なこと。

(2) 実績等

時 期	会 議 等	議 事
平成 26 年 4 月 9 日	設立総会	実行委員会の設立、委員等の選任、基本計画、開催要項、収支予算
平成 26 年 5 月 13 日	(参加チーム募集開始)	
平成 26 年 8 月 1 日	実行委員会第 2 回総会	実施計画案、補正予算、準備状況
平成 26 年 9 月 30 日	(参加チーム募集締切)	
平成 26 年 10 月 1 日	(観覧希望者募集開始)	
平成 26 年 10 月 18 日	(予選審査会)	
平成 26 年 10 月 20 日	(予選審査結果通知)	
平成 26 年 10 月 24 日	(観覧希望者募集締切)	
平成 26 年 10 月 28 日	実行委員会第 3 回総会	予選審査結果、準備状況
平成 26 年 11 月 7 日	(観覧希望者抽選結果通知)	
平成 26 年 11 月 22 日	(交流会)	
平成 26 年 11 月 23 日	(本選)	
平成 27 年 1 月 22 日	第 4 回実行委員会	開催結果、補正予算、第 2 回大会基本計画
平成 27 年 2 月 23 日	実行委員会設置会議	設置運営要綱(新組織)第 2 回大会基本計画

(3) 全国高校生第 1 回手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

別添のとおり

全国高校生第1回手話パフォーマンス甲子園の開催結果

1 大会概要

- (1) 日時 平成26年11月23日(日・祝) 10:30~17:00
 (2) 会場 県立生涯学習センター県民ふれあい会館(鳥取市扇町21)
 (3) 主催等 主催:手話パフォーマンス甲子園実行委員会
 共催:鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
 (4) 内容
 ア 出場チーム演技(20チーム。手話を使ったダンス、歌唱、演劇など。)
 司会:早瀬憲太郎さん(NHK「みんなの手話」レギュラー)
 今井絵理子さん(「SPEED」メンバー、2011年NHK「みんなの手話」司会)
 イ ゲスト演技
 アメリカの手話劇団 The National Theatre of the Deaf (ナショナルシアター・オブ・ザ・デア)
 ウ 審査発表、表彰、総評
 (5) 来場者数 約750名(サテライト会場を含む)

2 審査結果

- (1) 審査結果
 ア 優勝 石川県立田鶴浜高等学校(5名:手話歌) ※特別枠



<表彰式>



<演技>

- イ 準優勝 鳥取県立鳥取聾学校(5名:手話劇、手話歌) ※予選1位
 ウ 第3位 三重高等学校、三重県立相可高等学校、三重県立松阪工業高等学校
 (6名:手話歌、手話ダンス) ※特別枠
 エ 審査員特別賞 奈良県立ろう学校(10名:手話劇) ※予選3位
 (2) 審査方法
 ろう者の審査員3名:「手話の正確性・わかりやすさ」「手話表現の創造性・表現力」を審査
 聞こえる人の審査員3名:「総合的な表現力・パフォーマンス度」を審査
 (3) 表彰関係
 ア 優勝チームに優勝旗と賞状、個人に金メダル(砂のレリーフ)と副賞(iPad mini2)を授与
 あわせて全日本ろうあ連盟から「全日本ろうあ連盟賞」を授与
 イ 準優勝チームに盾と賞状、個人に銀メダルと副賞(鳥取県特産品5万円相当)を授与
 ウ 第3位のチームに賞状、個人に銅メダルと副賞(鳥取県特産品3万円相当)を授与
 エ 審査員特別賞のチームに賞状、個人に副賞(鳥取県特産品2万円相当)を授与
 オ 出場者(優勝、準優勝、3位以外)及び応募者全員に、砂を使ったキーホルダーを進呈
 カ その他、出場者全員に(株)タケモトフーズから大会記念のチョコレートを進呈
 (4) 出場チームの状況
 応募41チームから選出された特別枠5チームと予選通過15チームの計20チームが出場
 北海道:2、東京都:2、石川県:1、愛知県:1、三重県:1、滋賀県:1、大阪府:1、
 奈良県:1、鳥取県:3、高知県:1、福岡県:2、佐賀県:1、沖縄県:3 計20チーム

3 秋篠宮妃殿下、佳子内親王殿下の御臨席

大会の全日程を通して、秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下に御臨席賜った。
大会前日の交流会においては、出場チームの高校生と御歓談いただいた。



<秋篠宮妃殿下お言葉>



<出場チーム等演技御覧>



<交流会>

4 大会終了後の反響

大会の様子や結果などについて、NHK鳥取放送局など県内テレビ局での報道のほか、日本テレビ・テレビ朝日・TBS・NHK（Eテレ）など全国ネットでも報道された。新聞についても、大手全国紙での全国版への掲載や多くの地方紙でも取り上げられるなど、大きな注目を集めた。

単なる報道だけでなく、特定の学校を出場前から密着取材するものもあった。

5 会場での様子など

(1) 交流会での様子

- ・秋篠宮紀子様・佳子様と御歓談した生徒達は皆とても緊張していたが、直接お話できるという経験に感激していた様子だった。
- ・今井絵理子さんからのエールでは多くの女子高生がステージの周りに集まり、中には今井さんのメッセージに感動して涙ぐむ生徒もいた。
- ・会場内が狭い上に人が多く、すれ違うのも困難な会場だったにも関わらず不平を言う生徒は一人もなく、会場に着いた時も帰る時も元気に挨拶をして、礼儀正しく気持ちのよい生徒たちだった。
- ・他のチームの生徒と積極的に交流する姿が多く見られた。バスの中でも交流している姿が見られた。

(2) 出場チームの様子

- ・演技を終えたチームと舞台上上がるチームがハイタッチなどをしながらお互いの健闘を称え合っており、とても爽やかであった。
- ・殆どのチームが演技終了後に感極まって涙を流し、精一杯やりきった様子であった。

(3) 観覧の様子

- ・ホール、サテライト会場ともに、大きな手拍子や拍手で沸き、大いに盛り上がり、観客は皆集中して観覧していた。
- ・涙を流している観客も多く、特に鳥取聾学校の演技では多くの方が泣いていた。
- ・ろう者の方から、「手話パフォーマンス甲子園ではいろいろな感動をもらい、これからの聴覚障がい者の暮らしが豊かになると確認しました。」という声があった。
- ・サテライト会場は開演後すぐに満席となり、立ち見も入り切らなくなってクローズされた時間帯もあった。昼休憩に120席から160席に増やしたが、ほぼ満席の状態が続いていた。

(4) 関係者の様子

- ・審査員 — 審査が難しく大変だった。予選審査のアドバイスが効いて、各校ともレベルが上がっていた。特別枠はよくやっている。審査員も各チームの演技に涙していた。
- ・手話通訳者 — 高校生の演技に涙が出て、手話通訳が大変だった。
- ・鳥取県聴覚障害者協会理事長 — 閉会の挨拶では感極まって手話が止まってしまった。
- ・アメリカ・デフシアター — 本当に楽しい滞在だった。交流会で高校生とも交流できた。今度は生徒たちとぜひワークショップをしたい。

6 その他

- (1) 大会前日にはダイキンアレス青谷において交流会を開催。
- (2) ホールでの観覧は応募者の中から抽選で選ばれた方のみとなっていたことから、ステージの様子を5階のサテライト会場でスクリーン上映したほか、インターネットでライブ配信を実施。
- (3) 1階レストラン「なじみ亭」を1日限定の手話カフェとしたところ、多くの方が入店し、手話スタッフと手話でコミュニケーションをとっていた。
- (4) 1階ロビーで、鳥取聾学校写真部の作品のパネル展示、障がい者の事業所商品の販売を行った。

資料 5

第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成27年7月3日現在

日 程	内 容	備 考
平成27年3月	大会チラシ送付	全国の高等学校、特別支援学校
	大会チラシ、ポスター送付	<ul style="list-style-type: none"> ・全都道府県 (障がい福祉担当、教育委員会) ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成27年5月11日	参加申込み受付開始	
平成27年6月15日	JR 主要駅でのデジタル広告開始	鳥取駅、米子駅、松江駅、出雲市駅
平成27年7月3日	第1回企画推進会議	実施計画、申込み状況、 予算・決算、準備状況
平成27年7月10日	参加申込み期限	
平成27年7月29日	予選審査会	
平成27年8月上旬	予選審査結果通知	
平成27年8月下旬	第2回企画推進会議	予選審査結果、実施計画、準備状況
平成27年9月21日	交流会、リハーサル	
平成27年9月22日	本選	
平成27年12月上旬	実行委員会総会	開催結果、大会総括、専決処分の報告、 来年開催日程決定、補正予算
平成27年2月上旬	第3回企画推進会議	開催結果、第3回大会基本計画、 開催要項

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿
(平成27年度第1回)

役 職	所属 ・ 役職名	氏名 (敬称略)	出 欠 (代理：敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部長	松田 佐恵子	出
委 員	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 福祉・労働委員会委員長	諸家 紀子	出
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合	出
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代	出
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子	出
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事	杉本 新二	出
	鳥取県教育委員会事務局教育次長	小椋 博幸	出
	鳥取県高等学校長協会会長	藤原 辰広	欠
	鳥取県私立中学高等学校長会長	山内 晃	出
	鳥取県立鳥取聾学校長	藤田 則恵	〔 教諭 霜村 新 〕
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	廣田 喜春	出
	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊	出
事務局	障がい福祉課長	小林 真司	/
	障がい福祉課 課長補佐	藤井 洋子	
	障がい福祉課社会参加推進室 室長	鈴木 俊一	
	障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐	岡村 弘美	
	障がい福祉課社会参加推進室 係長	安永 孝文	